

2020年11月24日

# プレスリリース（研究成果）



国立大学法人  
東京医科歯科大学  
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

## 「COVID-19診療に従事する医療者のストレスを 検出する新しい評価尺度を開発」

—早期介入で安定した医療体制を構築する—

高橋 英彦

東京医科歯科大学医学部附属病院精神科  
大学院精神行動医科学分野

# 背景

---

東京医科歯科大学精神科と保健管理センター  
緊急事態宣言下の2020年4月

東京医科歯科大学医学部附属病院の医師・看護師を  
はじめ、事務スタッフや放射線技師など全職員を対象

面接と評価尺度（PHQ-9、GAD-7、PSS-10など）で  
精神状態の評価やCOVID-19診療における燃えつき予防  
などの情報提供を行った。

その結果、当初想定された以上にうつ状態や不安症状を  
呈している医療スタッフが多いことや、パンデミックに特有の  
人間関係の問題や経済的負荷などの問題が生じている  
ことが分かった。

# 背景

---

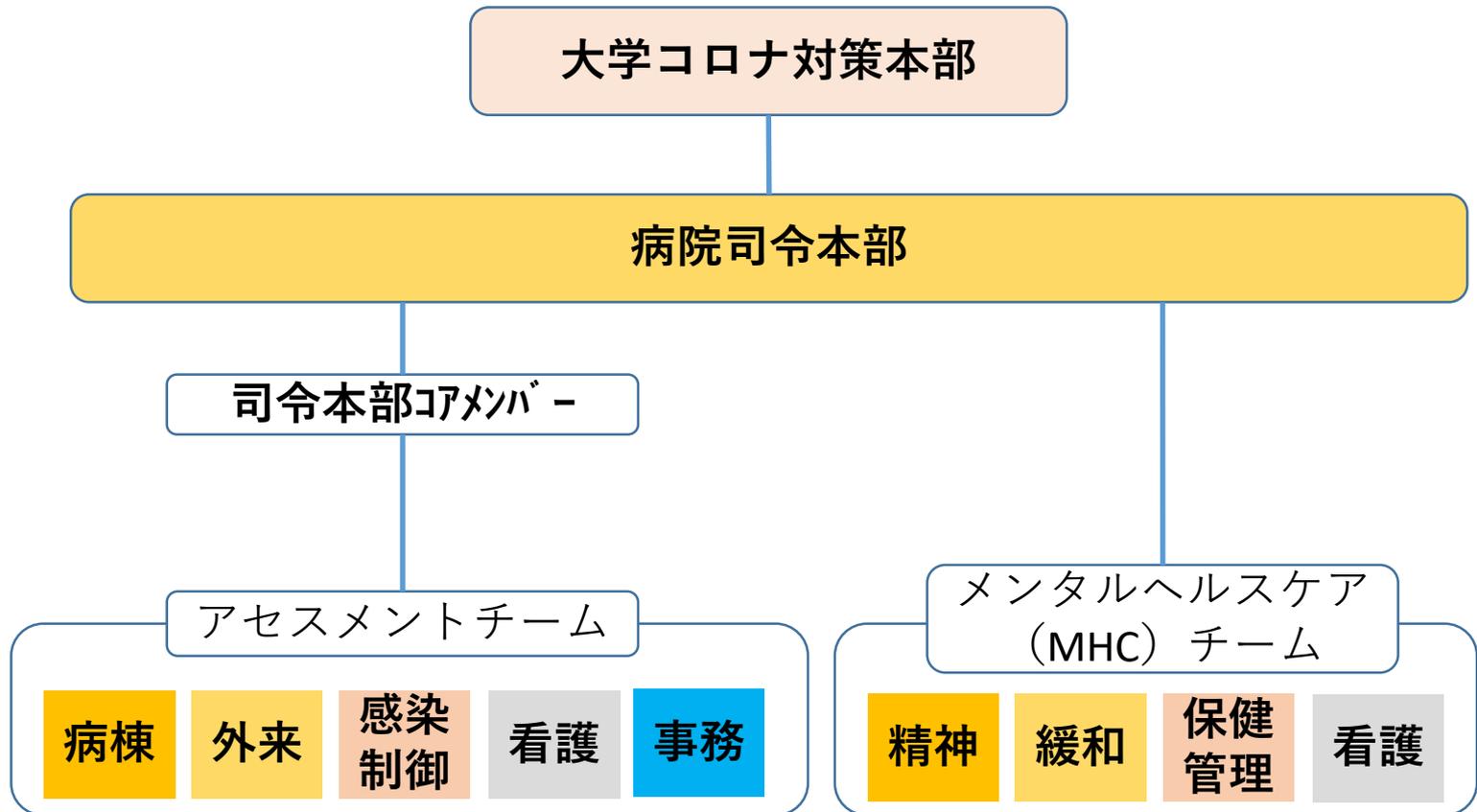
パンデミックにおいては、医療者は自分が感染源になって家族へうつすリスク、社会的な偏見、経済的負担など、感染症に特異的な事象が起こる。

このために、医療者が家に帰らずに仕事をしたり、家族から職場の変更を勧められたり、また他の施設への出勤を断られたりと、様々な現象が起こる。

これらの問題は、うつや不安とは別に、医療者のモチベーションや離職に関わり、安定した医療体制にも関わる。

しかし、これらのパンデミックに特有の人間関係の問題や経済的負担などを評価する尺度はこれまでなかった。

# 本学全体の組織図



MHCチームは職員および患者・家族のメンタルサポート・早期介入・予防を行う

# 方法

---

## メンタルの不調になる前の予防

→セルフケア・心理教育・ラインケア(管理者への情報提供)

## メンタルの状態のアセスメント・スクリーニング・モニタリング

→不安、抑うつ、燃え尽き等の評価

初回は対面式で質問紙で評価

質問紙:既存の物に加え

オリジナルのパンデミックストレス尺度使用(後述)

2回目以降、定期的に一斉メールを流し、WEBで実施

## スクリーニングでカットオフを超えると面談、フォローアップ

現在まで病院職員1000人以上にアセスメントをしてきているが、

今回の成果は、第一波以前から準備を進め、第一波時(4月20-24日)に実施した260名の医療者を対象にした第一報である。

# 成果

---

東京医科歯科大学精神科と保健管理センター、国際健康推進医学分野は共同で、COVID-19診療に従事する医療者の、精神的・社会的負荷を検出する簡便な新しい評価尺度 Tokyo Metropolitan Distress Scale for Pandemic (TMDP)を開発

国際科学誌Psychiatry and Clinical Neurosciences

2020年11月23日online版に掲載

<https://doi.org/10.1111/pcn.13168>

# Tokyo Metropolitan Distress Scale for Pandemic (TMDP)

	この2週間での中でのことをお聞きます	一度もない	ほとんどない	ときどきある	よくある	とてもよくある
1	COVID-19に罹患するのが怖い	0	1	2	3	4
2	COVID-19に罹患するかどうかは制御できないと感じる	0	1	2	3	4
3	COVID-19患者のケアのリスクを受け入れられないと感じる	0	1	2	3	4
4	COVID-19に罹患しないための職場環境の安全が保たれていないと感じる	0	1	2	3	4
5	新型コロナウイルスを周囲にうつすのではないかと不安になる	0	1	2	3	4
6	自分の仕事のせいで、周囲の人が私を避ける	0	1	2	3	4
7	COVID-19に関連して職場の人間関係が悪化した	0	1	2	3	4
8	COVID-19に関連して家族の人間関係が悪化した	0	1	2	3	4
9	COVID-19に関連した経済的負担を感じる	0	1	2	3	4

2つのサブ尺度から構成

感染に対する懸念

社会的なストレス

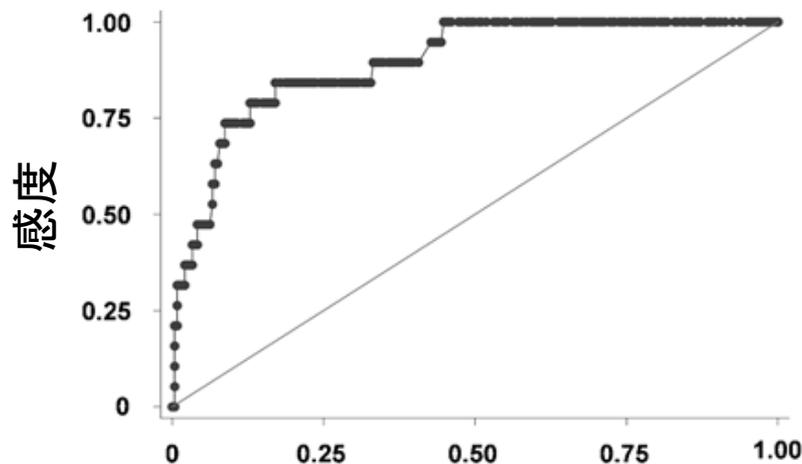
Shiwaku et al  
Psychiatry and Clinical Neurosciences  
in press

# 研究の詳細

TMDPは、一般的に広く使用されているうつ状態尺度(PHQ-9)、不安尺度(GAD-7)、ストレス尺度(PSS-10)と有意に相関した。

TMDPはROC曲線での解析で、AUC 0.90で中等症以上のうつ状態・不安症状を検出できることが分かった。(例:カットオフ値を14点(36点満点)とすると感度94.7%、特異度73.9%)

TMDPは、従来の一般的に使用されている尺度より簡便であるが、遜色ない性能。



(1-特異度)

# 意義・今後の展開

---

うつ状態や不安症状を検出するのに加え、社会的偏見・人間関係の悪化・経済的な負荷など医療者のモチベーションの低下につながる事象も検出し、これらの事象への早期介入が可能になりました。

**感染に対する懸念**は不安やうつに影響し、メンタル不調から休職、退職

**社会的ストレス**は仕事に対するモチベーションに影響し、自発的な辞職、転職、離職につながる可能性

TMDPは双方の評価が可能であり、安定した医療体制の維持に貢献することが期待されます。

# ポイントの要約

---

- COVID-19診療に従事する医療者の、精神的・社会的負荷を検出する簡便な新しい評価尺度Tokyo Metropolitan Distress Scale for Pandemic (TMDP)を開発しました。
- 新しい評価尺度TMDPは医療者のうつ状態や不安を簡便に検出し、さらにCOVID-19などパンデミック特有の現象、つまり感染拡大の当事者になるリスクや不安・社会的偏見・経済的負荷などを明らかにします。
- この評価尺度により、医療者のメンタルヘルスの評価とモチベーションの低下や離職リスクに早期に評価し、安定した医療体制の維持に貢献。